

■施工前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく施工してください。

■ここに示した「安全上のご注意」は状況によって重大な結果（傷害・物損）に結び付く可能性があります。いすれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

■施工完了後、試運転を行い異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそってお客様に使用方法、お手入れの仕方を説明してください。また、取扱説明書はお客様で保管いただくように依頼してください。

■給排水管工事は専門業者でお願いいたします。

安全上のご注意

製品を安全に正しくお使いいただく前に

施工前に「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく設置してください。

絵表示について

製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。



警告

この表示を守らずに誤った取り扱いをすると、人が死亡、または重傷を負う可能性が想定されている内容を示しています。



注意

この表示を守らずに誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う危険が想定されている内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。



○記号は、してはいけない「禁止」内容を示しています。



○記号は、触れてはいけない「接触禁止」を示しています。



○記号は、必ず実行していただく「強制」内容を示しています。

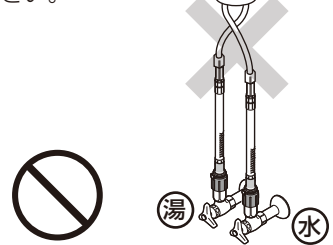


警告

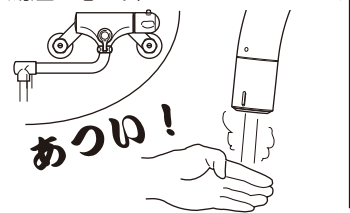
- ・本品は屋内設置用です。屋外では使用しないでください。
- ・修理技術者以外の人は、水栓内部を分解しないでください。
- ・必ず製品に付属の部品を使用して施工してください。
- ・この説明書に記載された項目以外は分解・改造しないでください。

やけどをするおそれがあります

湯水を逆に配管しないでください。



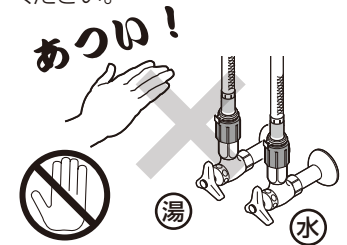
他所の水栓の使用などにより水圧変動が起こり、湯を使用中に湯温が急上昇することがあります。



給湯に蒸気を使用しないでください。

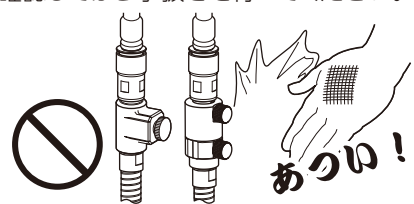


湯側の配管には手を触れないでください。



やけどや家財などをめらす財産損害発生のおそれがあります

水抜き継手（または逆止弁付き水抜き継手）は水抜き以外の目的で開けないでください（寒冷地仕様のみ）。また、湯側の水抜きをする場合は、事前に湯側で吐水して、高温の湯が出ないことを確認してから水抜きを行ってください。



注意

故障の原因になります

給湯温度は60℃以下で使用してください。60℃を超える高温でご使用になると製品の破損や変形により、機能を損なうおそれがあります。



水漏れで、家財などをめらす財産損害発生のおそれがあります

新設の場合、水栓を取り付ける前に、給水側・給湯側配管内のゴミなどを完全に洗い流してください。



部品の確認

浄水器部

切込みタグ: 浄水器部の取り付け前まで、はずさないでください。

保護材: 浄水器部の取り付け前まで、はずさないでください。

ロックス(白いひも): 水栓部へ取り付け前まで、はずさないでください。

品質表示/節湯C1タグ: 施工完了後、水栓に取り付けておいてください。

ワンタッチカブラ

吊り下げ袋

施工完了後、お客様の目につくよう、水栓の近くに置いてください。
※吊り下げ袋は仕様により付属しない場合があります。

保護材: ワンタッチカブラの取り付け前まで、はずさないでください。

ブレードホース

保護材: 天板の取付穴に通す前にはずしてください。

付属品

※仕様によっては、付属しない部品があります。

C形リング (赤色)

ホースストッパー

ビス

※タンクレス仕様には付属しません。

水受けボックス

※タンクレス仕様には付属しません。

ネジ式カブラ

寒冷地仕様のみ

パッキン(内蔵) ※紛失注意

ワンタッチカブラ

パッキン(内蔵) ※紛失注意

水抜き継手

パッキン(内蔵) ※紛失注意

逆止弁付き水抜き継手

※水抜き継手は仕様によりどちらになります。

水栓・付属品

水栓部

タブ

ワンタッチカブラ

ブレードホース

その他

施工説明書

取扱説明書

施工完了後、お客様の目につくよう、水栓の近くに置いてください。

準備する部品

吐水量調節および器具の点検を容易にするために、別途止水栓を必ず用意してください。
※ネジ規格はG1/2です。

止水栓 (例)

設置条件

■給水・給湯圧力範囲は動水圧0.05MPa～静水圧0.75MPaです。この圧力範囲内で使用してください。
推奨圧力は静水圧0.2MPa～0.3MPaです。給水圧力が静水圧0.75MPaを超える場合は、市販の減圧弁で静水圧0.2MPa程度の適正圧力に減圧してください。ただし、給湯圧力は給水圧より高くないように設定してください。

■給水・給湯配管は最短距離で配管し、配管には必ず保温材を巻いてください。

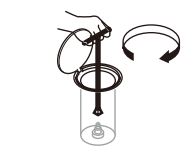
※給水圧力と給湯圧力は圧力差が少ない程、温度調節が容易になります。

※水道水の飲用基準に合格した水をお使いください。温泉水など異物を多く含む水には使用できません。

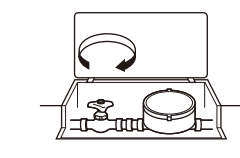
1. 施工方法

1-①水道配管の止水栓を閉め水抜きを行う 配管部の止水栓などにより通水を止めて、水抜きを行います。

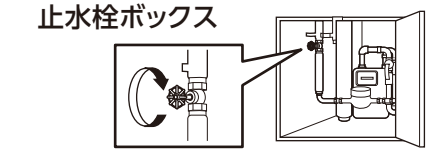
●キー式



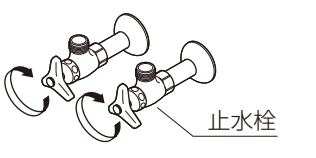
●ハンドル式



●マンションなどの中高層住宅の止水栓ボックス



●シンク下の止水栓



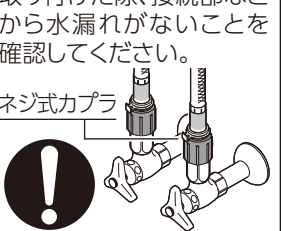
注意

水漏れで、家財などをめらす財産損害発生のおそれがあります

製品を落としたり、強い力や衝撃を与えないでください。



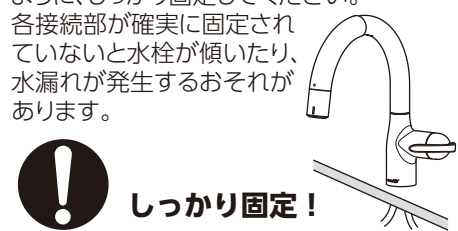
止水栓にネジ式カブラを取り付けた際、接続部などから水漏れがないことを確認してください。



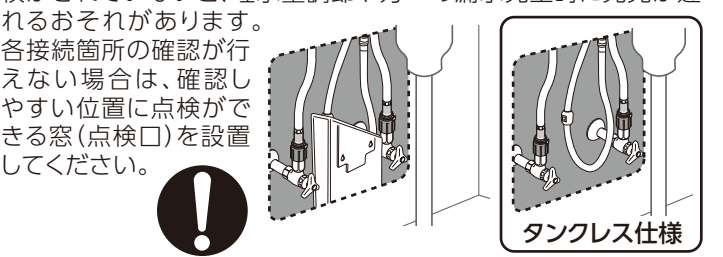
高水圧地区では減圧弁を設置してください。



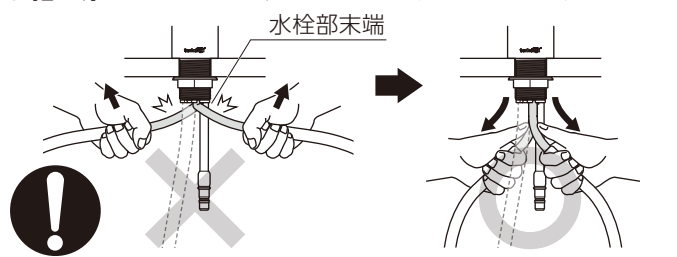
水栓および各接続部は浮きや緩みがないように、しっかり固定してください。



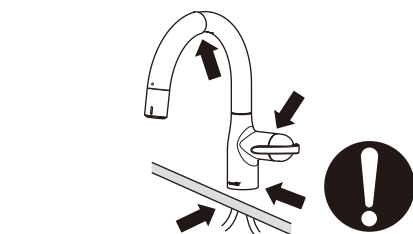
定期的な止水栓取り付け箇所や給水管、給湯管との接続箇所の点検がされていないと、吐水量調節や万一の漏水発生時に発見が遅れるおそれがあります。



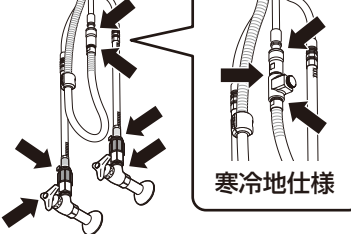
銅管を曲げる際は、銅管が水栓部末端で折れ曲がらないよう指を添えるなどしてゆるやかに曲げてください。



施工完了後は、水栓および各接続部から水漏れがないことを確認してください。



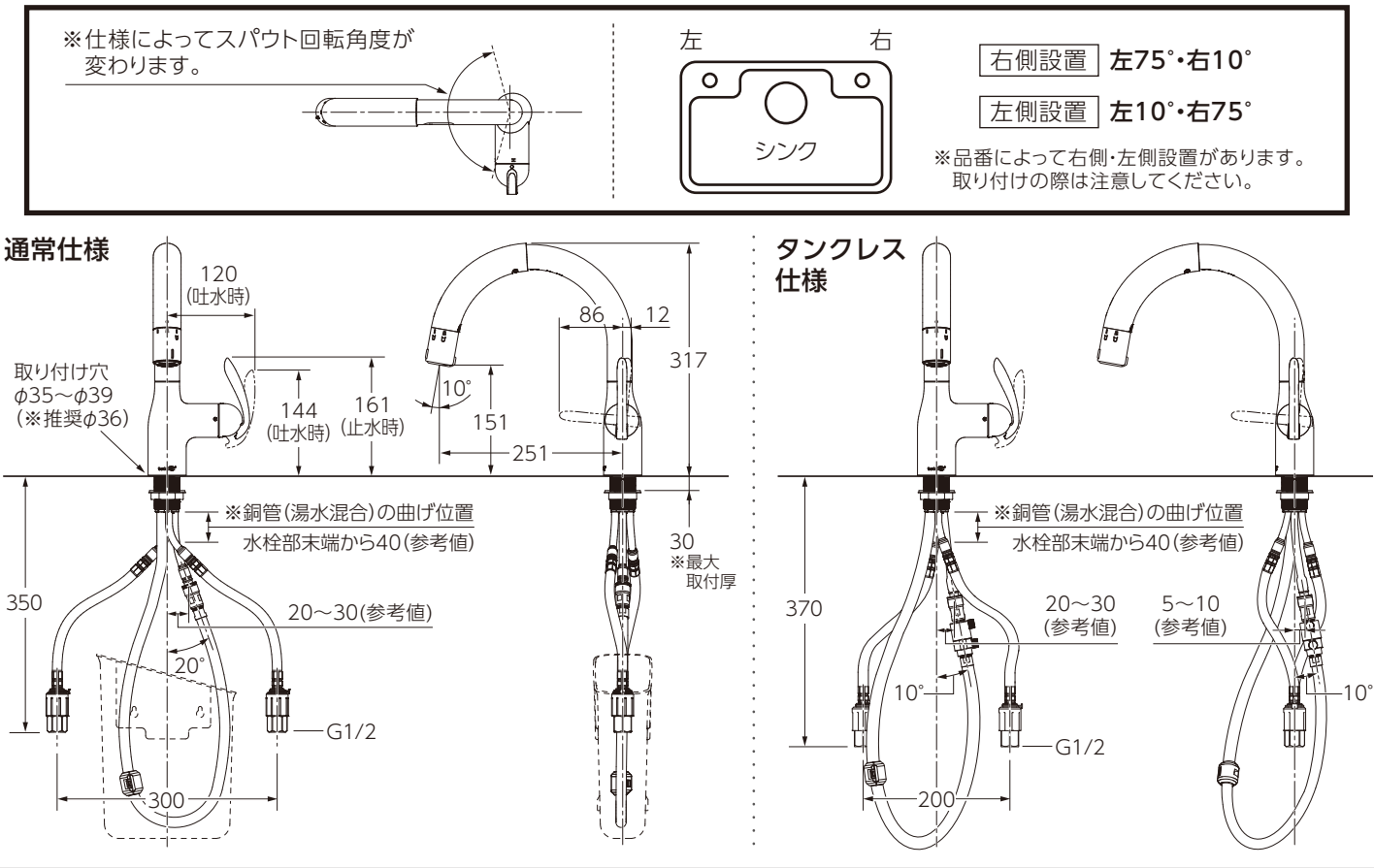
冬期に施工完了し、お客様にお引き渡しするまでの間、凍結による破損が予想されますので、水抜きなどの予防処置を行ってください。



（水栓に水抜き構造のあるものは水を抜いておいてください）



外観寸法図



1-②水栓固定ナット、ワッシャー、パッキンを取りはずす

ワンタッチカブラを右図の位置（固定ネジの下）にして、水栓固定ナット、ワッシャー、パッキン1枚を固定ネジからはずします（もう1枚のパッキンは残しておきます）。ブレードホース先端の保護材も取りはずします（その他の保護材は、はずさないでください）。

※ワンタッチカブラが右図の位置にないと水栓固定ナット、ワッシャー、パッキンが取りはずせません。

※切込みタグはフレキシブルホースから取りはずさないでください（ワンタッチカブラの位置を固定するために必要です）。

※寒冷地仕様の場合、ワンタッチカブラはフレキシブルホースに接続されていません。フレキシブルホースの末端が図のワンタッチカブラの位置となります。

1-③水栓部の取り付け

水栓部の下面にパッキン1枚（※1）が付いていることを確認し、ワンタッチカブラを右図の位置（固定ネジの下）にした状態で、天板の取付穴に水栓部を差し込みます。

パッキン、ワッシャー、水栓固定ナットの順に水栓部に通し、水栓固定ナットを矢印の方向に締め込み、固定ネジに仮止めします。

水栓部下の[takagi]ロゴが正面を向くように合わせたあと、水栓固定ナットを十分に締め込み、スパウトホルダーが左右に動くことを確認してください（微調整の際は、水栓固定ナットを少し緩め調整してください。調整後は混合栓用締付工具で増し締めしてください）。

※ワンタッチカブラが右図の位置にないと水栓固定ナット、ワッシャー、パッキンが取り付けられません。

※切込みタグはフレキシブルホースから取りはずさないでください（ワンタッチカブラの位置を固定するために必要です）。

※寒冷地仕様の場合、ワンタッチカブラはフレキシブルホースに接続されていません。フレキシブルホースの末端が図のワンタッチカブラの位置となります。



破損の原因となります

水栓固定ナットを締め込んだ状態で向きの調整をしないでください。



注意

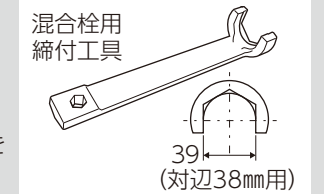
天板に水栓部を取り付ける際、不安定な場合は「あて木」などで補強を行ってください。



注意

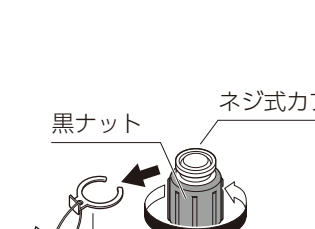
水漏れで、家財などをめらす財産損害発生のおそれがあります

水栓固定ナットは混合栓用締付工具を使用して、しっかり締め込んでください。



1-④止水栓にネジ式カブラを取り付ける

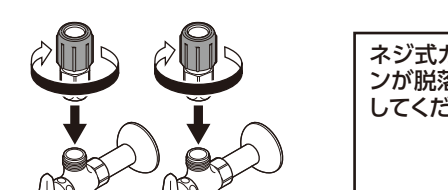
①ネジ式カブラの C形リングをはずし、黒ナットを「ゆるむ」方へ止まるまで回します。



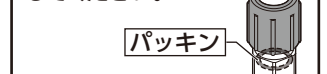
②止水栓にネジ式カブラを取り付けます。

※ネジ式カブラは平行ネジ（Gネジ）です。

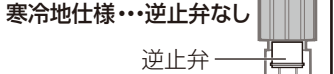
※止水栓がテーパーネジ（Rネジ）の場合は、テーパーネジ（Rネジ）用アダプターを使用してください。



ネジ式カブラの中のパッキンが脱落していないか確認してください。



【要確認】
通常仕様…逆止弁あり
寒冷地仕様…逆止弁なし



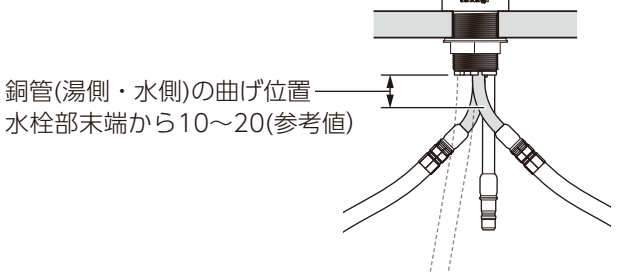
注意

水漏れの原因になります

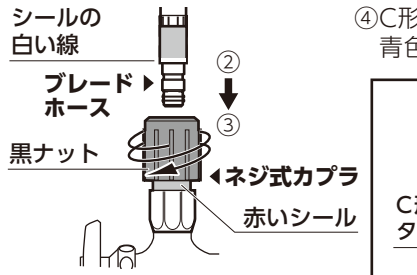
平行ネジにはシールテープを巻かないでください。止水栓にネジ式カブラを取り付けた際、十分にネジ式カブラが締め込まれているか確認してください。

1-⑤銅管（湯側・水側）を曲げてネジ式カプラとブレードホースを接合する

①銅管（湯側・水側）を水栓部末端から10～20mmの位置で曲げます。



②ブレードホースを、ブレードホースに貼られているシールの白い線までネジ式カプラに差し込みます。

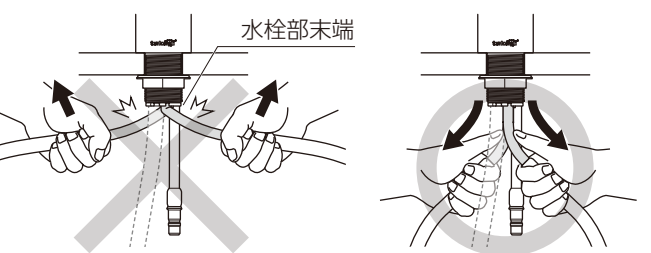


③ネジ式カプラの赤いシールが見えなくなるまで黒ナットを締めます。

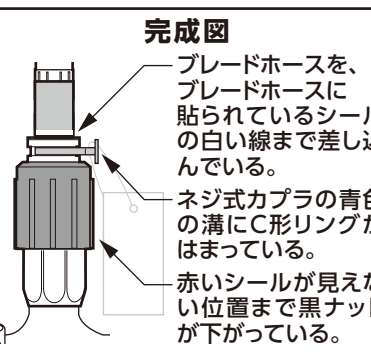
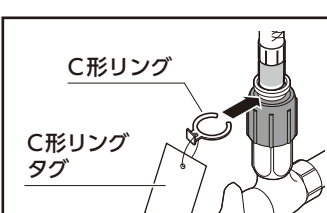


銅管を曲げる際の注意点

注意 水漏れで、家財などをめらす財産損害発生のおそれがあります
銅管を曲げる際は、銅管が水栓部末端で折れ曲がらないよう指を添えるなどしてゆるやかに曲げてください。



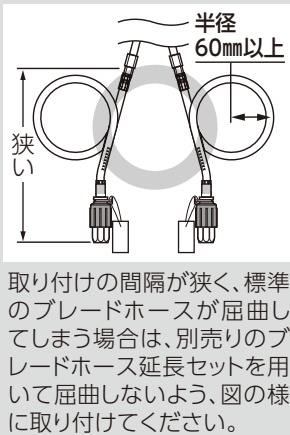
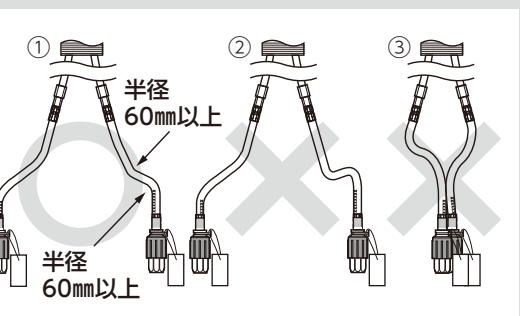
④C形リングをネジ式カプラの青色の溝にはめ込みます。



ブレードホース（湯側・水側）の施工上の注意点

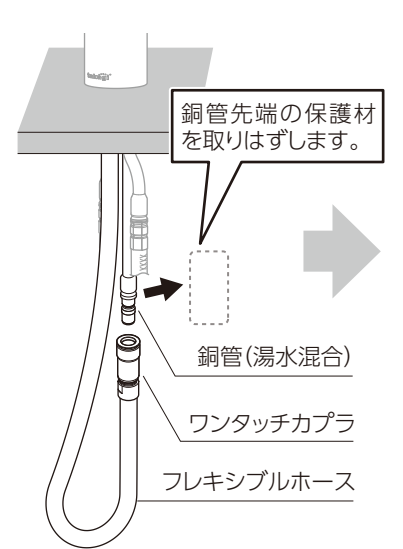
注意 水が出なくなるおそれがあります

- ブレードホースの折れに注意してください。ブレードホースを最小曲半径(60mm)よりも小さく曲げると、ブレードホースが折れることがあり、折れた部分で早期破壊を生じる可能性があります。施工時には最小曲半径(60mm)よりも小さく曲げないように、注意してください。
- ブレードホース端面から極端に屈曲して、施工しないでください。
- ブレードホース同士の不要な接触は避けてください。外部補強層の摩耗による外傷でブレードホースの性能が劣化するおそれがあります。

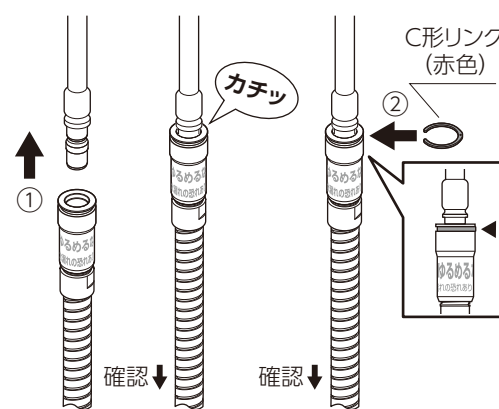


1-⑥フレキシブルホースを吐水口側の銅管（湯水混合）に取り付ける

①フレキシブルホースをシンク下に引き出し、銅管（湯水混合）にワンタッチカプラを接続します。



ワンタッチカプラと銅管の接続方法



①銅管にワンタッチカプラをカチッと音がするまで確実に差し込んだあと、フレキシブルホースを引っ張ってはずれないことを確認します。

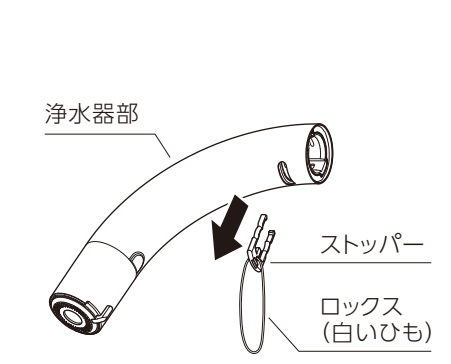
②C形リングをワンタッチカプラに取り付けます。C形リングの取り付けは、必ずワンタッチカプラと銅管を接続したあとに行ってください。先にC形リングを取り付けるとワンタッチカプラを銅管へ接続できません。C形リングを取り付けたあと、フレキシブルホースを引っ張ってはずれないことを再度確認します。(接続が不完全な場合、漏水の原因となります)

注意 水漏れの原因になります
●必ず上記の手順に従って、C形リングをワンタッチカプラに取り付けてください。●接続後は必ずフレキシブルホースを引っ張って、はずれないことを確認してください。

1-⑨浄水器部を取り付ける

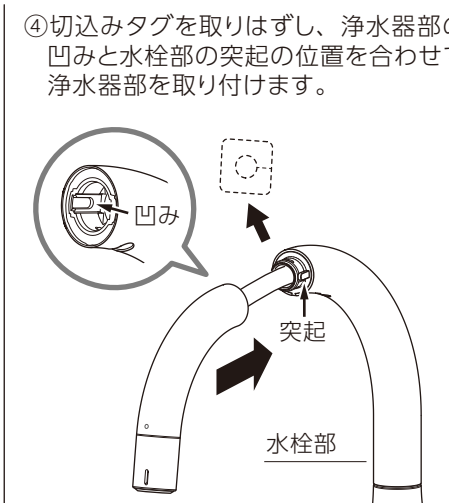
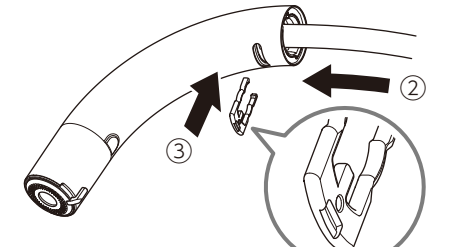
①浄水器部根元にあるロックス(白いひも)を引っ張り、ストッパーを引き抜きます。その後、ストッパーからロックス(白いひも)をハサミなどで切って取りはずしておきます。

※ストッパーを引き抜く際に、ロックス(白いひも)がはずれたときは、マイナスドライバーなどをストッパーに引っ掛けて引き抜いてください。



注意 破損のおそれがあります
浄水器部のグリップ部は薄い構造です。落下すると変形し、水栓部に取り付けできないおそれがあります。取り扱いには十分に注意してください。

②フレキシブルホース先端を浄水器部に差し込みます。
③浄水器部根元にストッパーを差し込みます。その後、フレキシブルホースを引っ張って浄水器部から抜けないことを確認します。
※ストッパーは図の向きで差し込んでください。



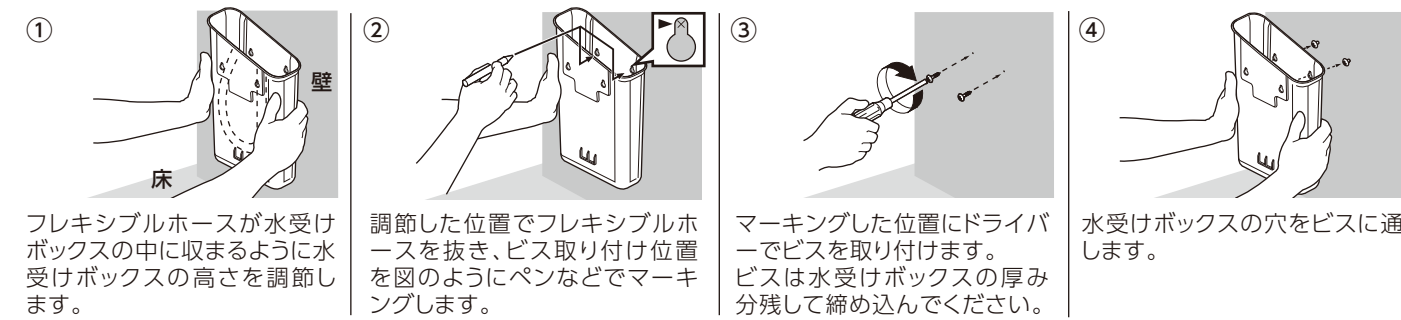
1-⑩水受けボックスを設置する場合

注意 ●水漏れ事故防止のため、当社製水栓金具以外のものに取り付けしないでください。
●正しく設置されていない場合、漏水およびフレキシブルホースの操作性が悪くなる原因となります。
●水栓部から水が多量に入った場合は、水受けボックスを取りはずし、滞留水を捨ててください。
●フレキシブルホースが最も引き出された状態で、フレキシブルホースの最下端が水受けボックスから外に出ないようにホースストッパーの位置を調節してください。
●変形するおそれがあります。40℃以上にならない場所に設置してください。

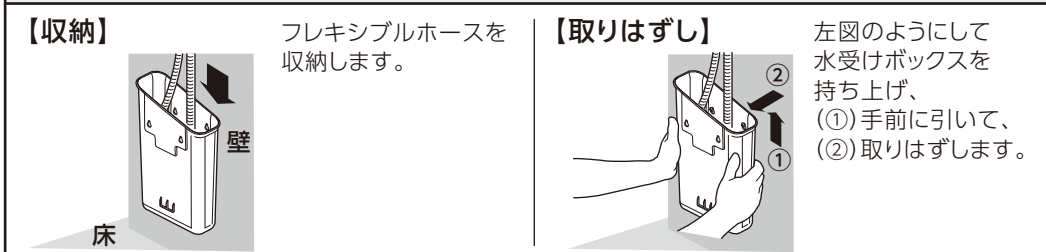
＜水受けボックス設置位置の目安＞

設置位置一覧表		
	フレキシブルホースの長さ	設置位置(A)
通常仕様		325mm
寒冷地仕様	1,300mm	345mm
寒冷地仕様(逆止弁付き水抜き継手)		355mm

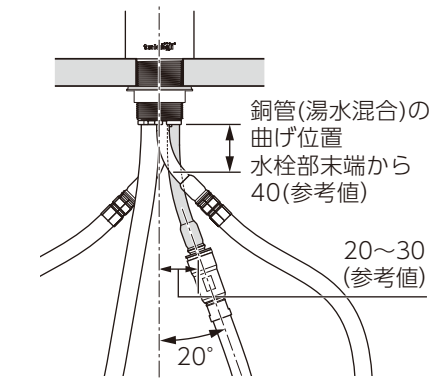
※設置位置(A)には天板の厚みが含まれています。



フレキシブルホースの収納と水受けボックスの取りはずし方



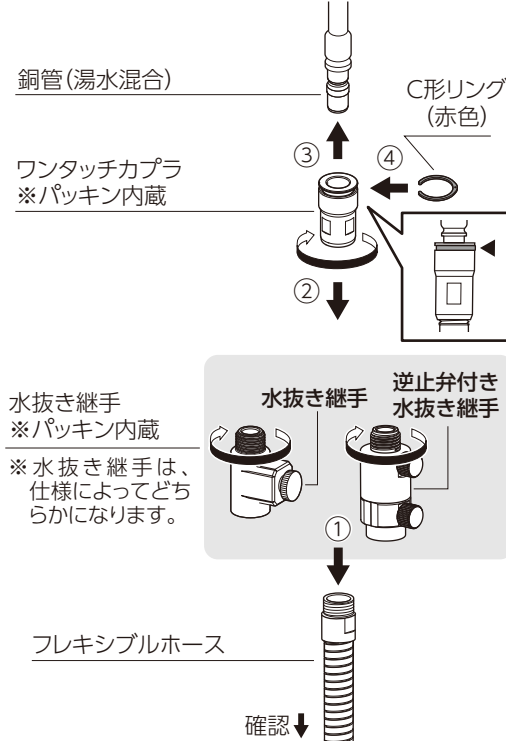
②銅管（湯水混合）を正面からみて20°右に曲げます。



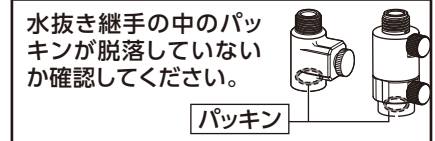
注意

水漏れの原因になります
●フレキシブルホース、水抜き継手、ワンタッチカプラの接続には適切な工具を使用し、締め込み後は十分に締め込まれているか確認してください。
●接続後は必ずフレキシブルホースを引っ張って、はずれないことを確認してください。

寒冷地仕様の場合



①フレキシブルホースに水抜き継手を回して取り付けます。



②水抜き継手にワンタッチカプラを回して取り付けます。

ワンタッチカプラの中のパッキンが脱落していないか確認してください。

③銅管にワンタッチカプラをカチッと音がするまで確実に差し込んだあと、フレキシブルホースを引っ張ってはずれないことを確認します。

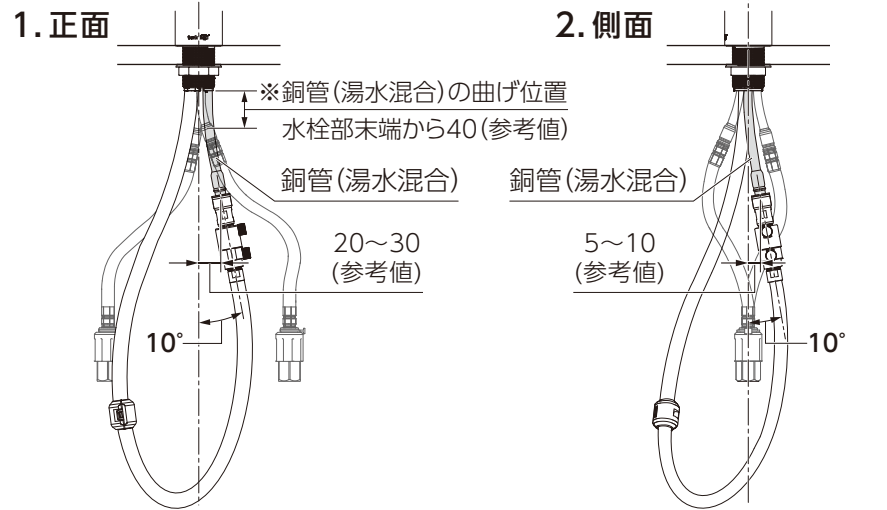
④C形リングをワンタッチカプラに取り付けます。C形リングの取り付けは、必ずワンタッチカプラと銅管を接続したあとに行ってください。先にC形リングを取り付けるとワンタッチカプラを銅管へ接続できません。C形リングを取り付けたあと、フレキシブルホースを引っ張ってはずれないことを再度確認します。(接続が不完全な場合、漏水の原因となります)

タンクレス仕様の施工の仕方

銅管（湯水混合）を曲げて、フレキシブルホースが止水栓に接触しないようにする

- 銅管（湯水混合）を正面からみて10°右に曲げます。
※銅管を曲げるときは、折り曲げ位置にご注意ください。銅管ガイドが銅管からはずれ、フレキシブルホースがスムーズに取り扱えない可能性があります。
- 銅管（湯水混合）を正面からみて10°奥に曲げ、止水栓や他部位に接触しないようにします。

フレキシブルホースの出し入れを繰り返して、止水栓および他部位に干渉しないことを確認してください。

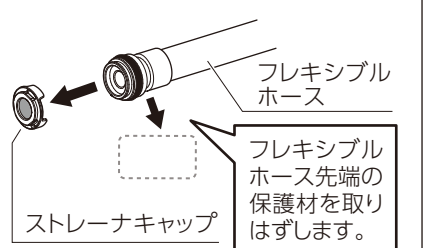


1-⑦水道配管の止水栓を開ける

レバーハンドルが閉じていることを確認してから、配管部およびシンク下の止水栓（湯側・水側）を開けます。

1-⑧浄水器部を取り付ける前に給水管内のゴミなどを洗い流す

①フレキシブルホースを引き出し、先端（浄水器部接続側）のストレーナキャップを取りはずします。
※キャップからストレーナが脱落しないよう注意してください。



②レバーハンドルを吐水の状態にして前後に振り、給水・給湯管内のゴミなどを完全に洗い流します。その後レバーハンドルを止水の状態にしてください。



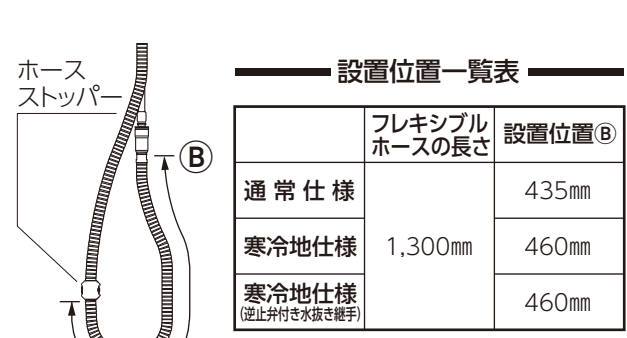
③フレキシブルホース先端にストレーナキャップを取り付けます。
※Oリングにゴミが付着しないように注意してください。



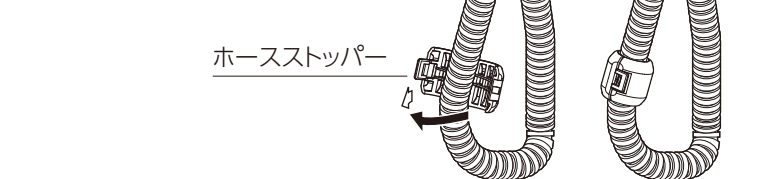
1-⑪ホースストッパーを取り付ける

＜ホースストッパー設置位置の目安＞

設置位置一覧表		
	フレキシブルホースの長さ	設置位置(B)
通常仕様		435mm
寒冷地仕様	1,300mm	460mm
寒冷地仕様(逆止弁付き水抜き継手)		460mm



フレキシブルホースを挟み込みます。



ホースストッパー取り付け上の注意点

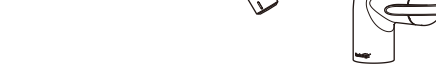
浄水器部の引き出しすぎにより、フレキシブルホースが元の位置に戻らないおそれがあります。フレキシブルホースが元の位置に戻るよう、引き出し長さをホースストッパーで調節してください。
なお、水受けボックスをご使用の場合は、フレキシブルホースが最も引き出された状態で、フレキシブルホースの最下端が水受けボックスから外に出ないようにホースストッパーの位置を調節してください。



2.取り付けが終わったら

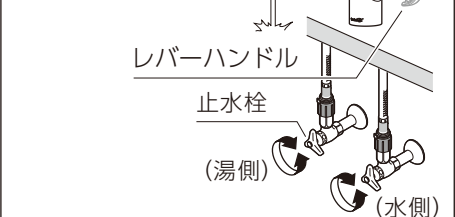
2-①引き出し・収納がスムーズに行えるか確認する

浄水器部の引き出し、収納を数回行い、正常に戻ることを確認してください。スムーズに出し入れできないときは、フレキシブルホースが給水・給湯の銅管部や、水受けボックスに干渉している場合があります。位置を調整してフレキシブルホースの通る空間を確保してください。



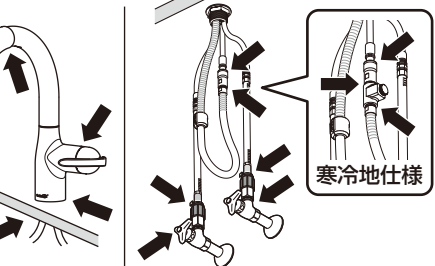
2-②止水栓で吐水量を調節する

使用時、水側全開および湯側全開のときの吐水量が最適となるように水側・湯側の2つの止水栓を調節してください。



2-③各接続部の水漏れがないかチェックする

レバーハンドルを閉じて水栓および各接続部から水漏れがないことを確認してください。(給水側、給湯側に水圧がかかった状態で確認してください)

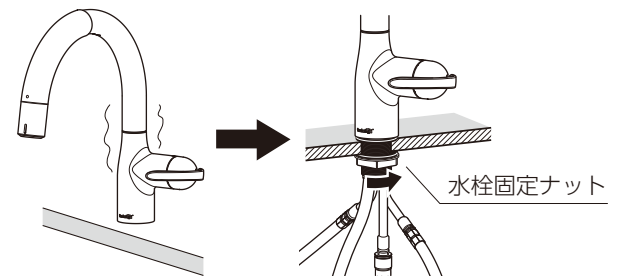


2-④水栓部がガタついていないかチェックする

水栓部にガタつきがある場合は、水栓固定ナットを回し、締め込んでください。

施工完了後のお願い

- 取扱説明書・施工説明書・吊り下げ袋はお客様の目につくよう、水栓の近くに置いてください。
- 品質表示/節湯C1タグは水栓に取り付けておいてください。



免責事項

以下の事項にて発生した損失や損害に対して株式会社タカギは一切責任を負うものではないことをあらかじめご了承ください。ご使用はお客様の責任で行っていただきますようお願いいたします。

- 施工説明書などに基かない施工、専門業者以外による移動・分解・改造などに起因する不具合。
- 建築躯体の変形（強度不足・ゆがみ）など製品以外の不具合に起因する製品の不具合。
- 電気・給水などの供給で指定された以外の環境に起因する故障および損傷。
- 自然現象や住環境に起因する結露、染み出し・かびなどの現象。
- 水道に関する国の基準（水道法）に定められた飲料水の水質基準に適合しない水を給水したことに起因する不具合。

■アフターサービスについて

破損した部分の交換や設置、使用上のご不明な点など、本商品に関する事柄は、当社までお問い合わせください。

■商品に関するお問い合わせは

タカギ・コミュニケーションセンター ミス は よい 水 受付時間 8:30～18:00（年中無休）
※受付時間外でも、修理など緊急の際は 音声ガイダンスより専用番号をご案内いたします。

株式会社 タカギ
https://www.takagi.co.jp/